

令和6年度 江戸川区立上一色南小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○明るくのびのび行動する子供 ○創造性を生かし、自ら学ぼうとする子供 ○仲間を大切にし、力を合わせる子供 ○健康な体と強い意志で、粘り強くやりぬく子供		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○相手の気持ちを考えることができる子供 ○最後まであきらめないうでやりぬく子供 ○問題を解決するためにどうしたらよいか考える子供
前年度までの本校の現状	成果	朝学習、授業中、宿題などでドリルパークによる復習を徹底してきたことで、タブレット学習の実施率が平均で1日2回程度となり区内で最高となった。毎週1回の運動遊び、学期に1回ずつの長縄週間、前期の持久走を行うことができた。また、業間休み・昼休みの外遊びの日常化が図れている。学校評価のすべての項目において80％以上の評価を得ることができた。		
		課題	・全国学力調査におけるAB層の割合は昨年度より多くなっているが、本校の目標値には達していない。個に応じた指導をより一層進め、CD層の底上げを行うとともに、AB層においては達成感を味わえるように授業改善を図っていく。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の 向上	○児童の学力向上及び 授業力向上	教育課題実践推進校として 算数科の研究に取り組むこ とで、授業力向上と学力向上 を図る。	学力調査において区 の平均点の獲得を目 指す。	A	B	A	全国学力・学習状況調査の結果で 、国語・算数ともに全国平均に 達している。また、意識調査では 意欲の高まりが見られた。	A	6年生の全国学力調査の結果が向 上していることが、取り組みの成 果を表している。	C	6年での成果が目立つが、全体的 に国語の言語関係や算数の基礎 的計算力などに課題がみられる ので、取り組みを継続する。	B	高学年の頑張りの成果が、他の 学年においても生かすことができ るように、引き続きの取り組みを 期待する。	調査を通して見られた 個々の課題を克服するた めに、タブレットを復習 に活用する。
	○個別最適な学びの実 現	ipadを授業に加え、朝学 習などの個別学習でも活用 し、個に応じたペースで学 習を進める。	保護者アンケートの 学力向上のための取 組の工夫の肯定的評 価80％を目指す。	B	B	B	ミライシードを活用した進めてい るが、まだまだ個人の学習理解度 の差がみられる。	B	児童がタブレットを積極的に活用 する様子が見られる。今後も家庭 学習も含めてipadの活用推進を期 待する。	C	調べる学習や復習、漢字や計算な どの基礎力向上に活用できてい る。今後も一人一人の課題に合わ せた活用をしていく。	B	タブレットを活用した学習に慣れ させているが、必要以上のタブ レットの使用が無いようにしてい きたい。	タブレットの使用の決まり を改めて確認し、適切 な活用ができるように指 導を続ける。
	○読書科の更なる充実	司書、図書館ボランティア と連携し、効果的な図書館 の活用や定期的な読み聞かせ 等に取り組む。	図書活用の基礎技能 を身に付けさせる。 月2回の読み聞かせ の時間を設ける。	B	A	B	朝読書や関係者と連携して取り組 んでいる読み聞かせを通して、読 書に対する興味関心を高めること ができた、	B	子どもたちが読書に親しむための 諸活動が行われている。また、図 書ボランティアの活動も読書環境 向上に貢献している。	A	新刊本の配架作業や図書室の環境 整備などを通して、環境を更新す ることができた。授業での図書の 活用も活発に行われた。	A	図書ボランティアを中心に、学校 と家庭とで連携して、読書に親し む環境づくりが行われている。	支援員や図書ボランティ アと連携を深め、子ども たちにとってより良い読 書環境を構築する。
体力の 向上	○体育授業の充実	系統性を重視した年間指導 計画による指導を徹底し、 様々な運動に触れる機会を 確保する。	8割の児童が体育の 授業が楽しいと感じ る授業を行う。	A	A	A	体育授業実践の工夫により、どの 学年においても体育を楽しみとし て感じる児童の数が9割を超えて いる。	A	子どもは、体育の授業や学校行事 に生き生きと取り組んでおり、運 動への意欲向上につながっている 。	A	教員間で連携を取りながら、体育 の授業に取り組むことで、互いの 授業技能を伸ばしながら子どもも 楽しめる実践ができた。	A	子どもは、体育の授業を楽しみに しており、楽しみながら様々な運 動の体験をすることができてい く。	体育授業の技能向上のた めに、教師間の教え合い や情報共有を進めてい く。
	○児童の基礎体力の向 上	学校独自の縄跳びや持久走 への取り組みを通して、楽 しみながら運動に取り組 み、運動の日常化を図る。	全ての児童が、毎週 1時間以上の運動に 取り組むことを目指 す。	A	A	A	上南タイムで持久走や長縄跳びに に取り組むことで、児童の体育的 技能や体力を高めることができて いる。	A	学校で取り組んでいる持久走の様 子を参観する機会があり、子ども たちの頑張る姿が見えた。	A	全校での運動に関する取り組みが 結果が、スポーツテストの結果に 表れており、瞬発力や持久力を高 めることができた。	A	学校公開の時以外にも、体力向上 の取り組みを参観する機会が度々 あり、非常によかった。今後も実 施を期待する。	今後も児童が楽しみなが ら、体力の向上を図るこ とのできる学校行事に取 組んでいく。
	○進んで体育に取り組 もうとする意欲の育成	運動や健康についての自己 課題を理解し、その解決 に向けて思考判断する機会を 設定する。	スポーツテストの意 識調査において運動 を好む児童の割合9 割を目指す。	A	A	A	体力テストの意識調査の結果では 、全ての学年でスポーツに対する 肯定的な回答の割合が9割を超え ていた。	A	縄跳びや持久走に全校一斉に取 り組む機会があり、体育の時間以 外にも運動に親しむ機会が多く設 けられている。	A	らんなフェスティバルなどの体 力づくりの成果を表現する機会を 通して、運動に進んで取り組む意 識を高めることができた。	A	運動に積極的に取り組もうとする 意識が養われており、それに伴 い体力の向上も図られていると感 じる。	今後も目標をもって運動 に取り組むことのできる 活動を推し進めていく。
教育の実 現に向けた 共生社会 の推進	○ユニバーサルデザ インの視点を取り入れた 個に応じた指導の実 施・充実	特別支援教室専門員・巡回 指導士・日本語指導員や日本 語教室との連携	支援を受ける児童の 情報を共有する場を 月1回設け普段の指 導に生かしていく	A	A	A	常に児童の情報を交換しながら連 携し、指導にあたることができ た。	A	支援を必要とする子どもたちのた めの取り組みがなされている。今 後も引き続きの支援を期待する。	A	年間を通して児童への適切な支援 を行うことができた。今後も、連 携しながら支援に取り組んでい く。	A	子どもたちのニーズに合わせた支 援が行われている。今後も引き続 きの取り組みを期待する。	教職員と専門スタッフの 連携を深め、より適切 な支援が行う。
	○エンカレッジルーム の活用促進	特別な配慮を要する児童に は、エンカレッジルーム を活用して、個に応じた適切 な支援、指導を行う。	学校説明会や保護者 会などの機会にエン カレッジルームにつ いて紹介していく	B	A	B	特別な配慮を要する児童への支援 の場として、エンカレッジルーム を活用し、成果をあげることが できた。	B	子どもが気持ちを落ち着かせたり 、切り替えたりするための部屋 があることで、安心して過ごすこ とができている。	B	児童が落ち着くことができる環境 を維持することで、気持ちをリフ レッシュさせることができた。	B	気持ちの切り替えが可能な場所が あることは、児童にとって非常に 良い支援につながっている。	物理的環境は整備されて いるので、今後は人的 環境整備に注力してい く。
	○副籍交流、交流及び 共同学習の実施・充実	鹿本学園との共同学習や児 童同士の交流を通した体験 的な学習を実施する。	年1回以上の実施	A	A	A	児童の相互理解に資するように鹿 本学園との交流実施に向けて、 計画を立てることができた。	A	これまでと同様に、児童同士が触 れ合う機会を設定していくこと期 待する。	A	今年度も鹿本学園と交流会交流 会を実施した。ゲームや踊りの披露 などの活動を通して交流を深める ことができた。	A	鹿本学園との交流活動を通して 、互いの理解を深めることができ たと思う。	次年度以降の活動に向 けて、教員同士の連携を深 めていく。
不登校・ いじめ対応 の充実	いじめや不登校対策 の実施・充実	毎週、生活指導夕会を行 い、問題行動の早期発見・ 早期対応、事故等の未然防 止に努める。	保護者アンケートの 「いじめの防止」に 対する肯定的評価を 80％以上とする。	B	B	B	ふれあい月間や生活指導夕会での 情報共有を通して、いじめ・不登 校対策に取り組むことができて いる。	B	悩みをもつ子どもたちに家庭と学 校が協力しながら、対応に取り組 んでいる。	A	担任が一人で抱え込まないよう に、全体で児童の情報を共有し 、学校と家庭で連携しながら解決 に取り組んできた。	A	子どもたちの困りごとについて 、より素早く解決できるように 、今後も家庭と学校の連携に取 組むたい。	まだまだ、支援継続中 のケースがあるので、引き 続き全てで解決に取り組 みたい。
	hupaer-QUの活用	QUの分析結果を児童一人 一人の支援に生かす。1学期 末の個人面談時に保護者と 共有し連携を図る。	1学期末の個人面談 時に保護者と共有し 連携を図る。	B	B	B	hupaer-QUの結果を踏まえて保 護者面談を実施し、今後の児童 の支援について家庭と共有を図 ることができた。	A	1学期の間に2回の個人面談があ り、学校での子供の様子を聞くこ とができ良かった。	A	hupaer-QUの実施を通して、客 観的に児童の社会的な支援課題 への理解を深めることができた。	A	複数の面談の機会を通して、学 級での様子や友人関係のこを知 ることができてよかった。	より早く児童理解に取 り組めるように、ウェブ 版のhupaer-QUの活用を 検討したい。
	教育相談の強化	SC及びSSWとの連携を 図り、児童のケアに努め、 すべての児童が安心して生 活できるようにする	5学年全員面接を 実施。職員間で共有 した情報を基に教育 相談につなげていく	A	A	A	授業観察や個別面談、5年生の全 員面談を通して児童の課題に寄 り添い、支援のための情報を共 有することができた。	A	スクールカウンセラーが保護者 との面談の機会を設けているこ とで、様々な相談ができてよか った。	A	スクールカウンセラーとの児童 の情報の共有が効果的に図られ 、支援に役立てることができた。	A	SCの先生との面談で、子ども の悩み事について話を聞いて もらい、アドバイスを受けること ができてよかった。	SCを介した相談体制が非 常に有効であるので、今 後も連携を取りながら取 組みを進めていく。
学校（園）開 かれた地域 社会に の実現	学校（園）ホームペ ージの充実等	学習規律、生活規範に関 する「7つの合い言葉」の取 組状況をHPに掲載し保護 者・地域と連携強化を図る	「7つの合い言葉」 における達成率を全 学年で5％向上させ る。	B	A	B	1学期の結果をホームページに掲 載し、保護者に周知を図った。ま た、すべての項目において8割 以上達成できている。	B	「7つの合い言葉」の取り組みの 様子が、ホームページや校内掲 示で知ることができた。	A	「7つの合い言葉」多くの項目 において、非常に高い目標を達成 でき、その成果をHPや校内掲 示で周知できた。	A	児童の頑張りが目に見える形 で示されていることが、子ども たちの生活改善の意欲向上につ ながっている。	取り組みでえてきた生 活に関する課題も見られ るので、改善の取組み を続ける。
	学校（園）公開の実 施・充実	年4回の学校公開を実施す る。親子参加型の道徳授業 地区公開講座を行い教育活 動への理解促進を図る。	保護者アンケートの 「家庭地域との連携 を深める取組」の肯定 評価を85％以上とす る。	B	A	B	1学期に2回学校公開を実施し、 保護者や地域の方の参観を通し て、学校の教育活動について理 解をいただいている。	A	学校公開の機会に、子どもの学校 での様子を知ることができた。今 後の運動会や展覧会が楽しみで ある。	A	「家庭地域との連携を深める取 組」の肯定評価が85％から95％ に大幅に向上させることができ た。	A	子どもたちの学校での様子を直 接見ることができる機会が多く て良かった。今後も同様の活動 を期待している。	次年度以降も、家庭・地 域との連携を目指して 、子どもと保護者と共有 する活動に取り組んでい く。
	教育活動の改善・充 実に向けた学校関係 者評価の実施	ネットを活用した学校関係 者評価を実施し意見を 募る。それらをもとに改善 に向けた方針をまとめる。	保護者アンケートの 回収率を80％以上 とする。	A	A	A	昨年度のアンケートの結果を分析 し、本校の教育課題についての 分析に取り組んでいる。	A	児童の頑張りや、学校としての取 組み、本校の教育課題を通して 知ることができた。	A	昨年度に引き続き、学校の教育 活動に関する意見を具体的に知 ること、成果を課題をより明確 に理解することができた。	A	今年の学校アンケートの結果を 活用して、子どもたちにとって より良い環境づくりに取り組め るよう協力していきたい。	今年度のアンケートを受 けて見えてきた課題の解 決に取り組んでいく。
教育の 特色ある 展開	1人1台端末を効果 的に活用した学習 習慣の確立	毎週金曜日の朝学習、毎日 の家庭学習、日々の授業に おいてタブレットを活用し 学習習慣を確立させる。	朝学習で前学年の復 習を9月まで、当該 学年の復習を行い3 月までに終わらせる	B	A	B	1日平均で10～20分間ぐら いの時間をミライシードでの学 習に取り組む学習内容の定着を 図っている。	B	学校の授業でタブレットを使用 したり、復習や学校の宿題に取 り組んだりする姿が見られ、積 極的に活用されている。	B	普段の活用に加え、江戸川区 の学力調査の復習にタブレット を活用することができたが、活 用状況に個人差が見られた。	B	復習にタブレット学習で取 組んでいるが、タイピングなど のゲーム的要素があるものに 夢になる様子が見られる。	タブレットを活用して 、学力調査から見えてきた 学習課題に繰り返し取 組んでいく。
	体育的行事と体力向 上を目指した運動 の日常化	毎週1回の運動遊び、学 期に1回ずつの長縄週間、年 間2回の持久走を実施する。 外遊びの日常化を図る	保護者アンケートの 「たくましい子を育 てるための取組」の肯定 評価を90％以上とす る	A	A	A	持久走や縄跳びに全校で取り組 み体力と運動意欲の向上を図る ことができた。体力調査では跳 力・持久の結果が良かった。	A	学校全体で、らんなフェスティ バルに取り組んだことで、体力 の向上が図られていると思う。	A	アンケートで「たくましい子を 育てるための取組」の肯定評価 が96％であり、取り組みへの理 解が得られたと考えられる。	A	様々な学校行事を通して楽し みながら運動に取り組む機会 があり、子どもの体力向上につ ながっている。	体力テストで見られた課 題を解決するための取 組みを工夫していきたい。
	陶芸・クロッキーに 親しみ感性を育 む	陶芸の授業及びやきもの 展、クロッキータイム及び クロッキー展を行い情操 教育の充実を図る。	保護者アンケートの 「豊かな感性を育む ための活動」の肯定 評価を95％以上とす る。	A	A	A	学校で一斉にクロッキータイム に取り組むという共通体験を通 して、児童の情操を育むことが できた。	A	毎月実施しているクロッキー タイムで、図工の時間以外にも 楽しみながら美術的活動に取 組むことができている。	A	年間を通して取り組んだクロ ッキータイムは、豊かな心の育 成に大きく資することができ た。	A	今年の展覧会を通して子ども たちの豊かな情操が培われて きているのを感じた。	本校独自の活動であるク ロッキータイムを、今後 も発展させていきたい。